

地域医療支援病院業務報告書

令和7年9月10日

愛知県知事殿

開設者 住 所 豊川市諏訪1丁目1番地

氏 名 豊川市長 竹本 幸夫

下記のとおり、令和6年度の業務に関して報告します。

記

1 病院の名称等

名 称	豊川市民病院					
所 在 地	豊川市八幡町野路23番地					
診 療 科 名	内科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、腎臓内科、脳神経内科、血液内科、糖尿病・内分泌内科、外科、呼吸器外科、消化器外科、心臓血管外科、脳神経外科、乳腺外科、小児外科、整形外科、形成外科、精神科、リウマチ科、小児科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、リハビリテーション科、放射線科、病理診断科、救急科、麻酔科、歯科口腔外科					
病 床 数	精 神	感 染 症	結 核	療 養	一 般	合 計
	6 5		8		4 2 8	5 0 1

2 施設の構造設備

施 設 名	設 備 概 要
集 中 治 療 室	(主な設備) 超音波診断装置、高低体温維持装置、心拍出量測定装置、セントラルモニタ、ベッドサイドモニタ、B I Sモニタ、心電計、除細動器 病床数 6 床
化 学 檢 查 室	(主な設備) 生化学自動分析装置、自動顕微鏡血液細胞分類装置、P C R装置、多項目自動血球分析装置、血液凝固分析装置、血液ガス分析装置、全自动免疫化学発光システム、尿中成分分析装置、輸血検査装置
細 菌 檢 查 室	(主な設備) 嫌気・微好気ワークステーション、血液培養自動分析装置、微生物由来成分分析装置、遠心機、C O 2 ふ卵器、顕微鏡
病 理 檢 查 室	(主な設備) 自動ガラス封入装置、密閉式自動包埋装置、自動染色装置、プッシュプル切り出し台、システム生物顕微鏡、写真撮影装置、ミクロトーム、自動免疫染色装置
病 理 解 剖 室	(主な設備) 感染防止L型解剖台、L型ラミナフローユニット、臓器撮影装置、ホルマリン固定槽
研 究 室	(主な設備) 机、椅子、書棚
講 義 室	室数 3 室 収容定員 210人
図 書 室	室数 1 室 藏書数 4,000冊程度
救 急 用 又 は 患 者 搬 送 用 自 動 車	(主な設備) 患者搬送用自動車、ストレッチャー 保有台数 1 台
医 薬 品 情 報 管 理 室	[専用室の場合] 床面積 32.6 m ²

備考1 用紙の大きさは、日本工業規格A4とする。

2 規則第9条の2第1項各号に掲げる事項を記載した書類を添付すること。

別紙1

紹介患者に対する医療提供及び他の病院又は診療所に対する患者紹介の実績

1 算定期間 令和6年 4月 1日 ～ 令和7年 3月31日

2 紹介率 71.1 %

紹介患者の数 (A)	初診患者の数 (B)	紹介率 (A/B × 100)
14, 154人	19, 884人	71.1%

3 逆紹介率 92.8 %

逆紹介患者の数 (C)	初診患者の数 (B)	逆紹介率 (C/B × 100)
18, 457人	19, 884人	92.8%

月別内訳は別紙1-1のとおり

※1 各人数については、前年度の延べ人数を記入すること。

※2 紹介率及び逆紹介率は、小数点以下第1位まで記入すること。

※3 紹介率が80%以上であることを承認の要件とする場合で、紹介率が65%以上80%未満の病院にあつては、今後、2年間で紹介率を80%以上とするための具体的な年次計画を明らかにする書類を添付すること。

備考 用紙の大きさは、日本工業規格A4とする。

共同利用の実績

(地域の医療従事者による診療、研究又は研修のための利用)

1 共同利用の実績

※1 前年度の共同利用を行った医療機関の延べ機関数、これらの医療機関のうち申請者と直接関係のない医療機関の延べ機関数、共同利用に係る病床の病床利用率等を記入すること。

- ・前年度共同利用を行った医療機関の延べ機関数 令和6年度 1,690件
- ・うち、申請者と直接関係のない医療機関の延べ機関数 令和6年度 1,690件
- ・共同利用に係る病床の病床利用率 令和6年度 10.2%

2 共同利用の範囲等

※2 病院の建物の全部若しくは一部、設備、器械又は器具のうち、共同利用の対象としたものを記入すること。

共同利用対象施設 ・・・ 開放型病床、図書室、講堂

共同利用対象医療機器 ・・・ X線コンピュータ断層撮影装置（CT）、磁気共鳴断層撮影装置（MRI）、陽電子放出断層撮影装置（PET-CT）、核医学断層装置（RI）、骨密度測定装置（DEXA法）、上部消化管内視鏡検査装置、超音波診断装置、乳房X線撮影装置、トレッドミル、ホルタ一心電図検査装置

共同利用に関する規程	有	
利用医師等登録制度の担当者	氏名	
	職種	医師

※3 共同利用に関する規程がある場合には、当該規程の写しを添付すること。

別紙2-1のとおり

4 登録医療機関の名簿

医療機関名	開設者名	住所	主たる診療科	申請者との経営上の関係

※4 申請に係る病院と同一の2次医療圏に所在する医療機関についてのみ記入すること。

5 常時共同利用可能な病床数 5床

各共同利用の月別内訳は別紙2-3のとおり

備考 用紙の大きさは、日本工業規格A4とする。

救急医療提供の実績

1 重症救急患者の受け入れに対応できる医療従事者の確保状況

No.	職種	氏名	勤務の様子	勤務時間	備考
		別紙3-1のとおり	常勤 非常勤	専従 非専従	

2 重症救急患者のための病床の確保状況

優先的に使用できる病床	名称 (ICU) 6床
専用病床	名称 (救急病床) 18床

※ 一般病床以外の病床を含む場合は、病床区分ごとに記入すること。

3 重症救急患者に必要な検査又は治療を行うために必要な診療施設の概要

施設名	床面積	設備概要	24時間使用の可否
救命救急センター (1階)	481.1m ²	(主な設備) 診察室5、救急处置室4、点滴室、超音波画像診断装置、セントラルモニタ、ベッドサイドモニタ、血液ガス分析装置、心電計、除細動器、心臓マッサージシステム	可
放射線科 (1階救命 救急センター隣接)	949.5m ²	(主な設備) CT、MRI、血管撮影装置、一般撮影装置、X線テレビ撮影装置、移動型X線撮影装置、ポリグラフ、人工呼吸器、除細動器	可
救急病棟 (3階)	960.6m ²	(主な設備) ICU6、救急病床18、超音波診断装置、高低体温維持装置、心拍出量測定装置、セントラルモニタ、ベッドサイドモニタ、BISモニタ、心電計、除細動器	可
中央手術センター (3階)	1,321.8m ²	(主な設備) 手術ルーム8、手術台、麻酔器、電気メス、手術用顕微鏡、外科用内視鏡システム、外科用X線テレビ装置、超音波画像診断装置、生体情報モニタ、神経機能検査装置	可

4 救急医療の提供の実績

救急用又は患者搬送用の自動車により搬入した救急患者の延べ数	8,172人 (2,958人)
上記以外の救急患者の延べ数	12,650人 (2,008人)
合計	20,822人 (4,966人)

※ () 内には、それぞれの患者数のうち入院を要した患者数を記載すること。

5 保有する救急用又は患者搬送用の自動車の出動回数

0回

6 備考

救急病院の認定告示 昭和39年8月5日 (令和4年5月1日～令和7年4月30日)
救命救急センターの指定 令和元年12月1日

※特定の診療科において、重症救急患者の受け入れ体制を確保する場合は、その旨を記入すること。

既に、「救急病院等を定める省令」(昭和39年厚生省令第8号)に基づき知事の救急病院の認定を受けている病院及び「救急医療対策の整備事業について」(昭和52年7月6日付け医発第692号厚生省医務局長通知)に基づき救急医療を実施している病院にあっては、その旨を記入すること。

備考 用紙の大きさは、日本工業規格A4とする。

別紙4

地域の医療従事者の資質の向上を図るための研修の実績

1 研修の内容

別紙4-1のとおり※

※地域の医療従事者へ案内をしたが参加が無かったものを含みます。

2 研修の実績

(1) 地域の医療従事者への実施回数	26回
(2) (1) の合計研修者数	1,956人

※ 研修には、当該病院以外の地域の医療従事者が含まれるものも記入すること。

(2) には、前年度の研修生の実数を記入すること。

3 研修の体制

(1) 研修プログラムの有無 有 無

別紙4-2のとおり

(2) 研修委員会の有無 有 無

別紙4-3のとおり

(3) 研修指導者

氏 名	職 種	診 療 科	役 職 等	臨 床 経 験 数	備 考
別紙4-4のとおり				年	
				年	
				年	
				年	
				年	

※ 研修責任者については、備考欄にその旨を記入すること。

4 研修実施のための施設及び設備の概要

施 設 名	床 面 積	設 備 概 要
講堂	291.9m ²	(主な設備) 放送設備、スクリーン、プロジェクタ、机、椅子
第1・第2会議室	128.8m ²	(主な設備) 放送設備、スクリーン、プロジェクタ、机、椅子

備考 用紙の大きさは、日本工業規格A4とする。

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法

1 管理責任者等

	氏名	職種	役職等
管理責任者の 氏名、職種、役職等		医師	院長
管理担当者の 氏名、職種、役職等		事務職	事務局長

2 諸記録の保管場所及び分類方法

	保管場所	分類方法
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約	電子カルテ内 経営企画室	日ごと 患者ID順 ターミナルデジット方式
病院の管理及び運営に関する諸記録	共同利用の実績	患者サポートセンター
	救急医療の提供の実績	医事課
	地域の医療従事者の資質の向上を図るために研修の実績	患者サポートセンター及び、研修実施部署
	閲覧の実績	患者サポートセンター、経営企画室
	紹介患者に対する医療提供及び他の病院又は診療所に対する患者紹介の実績の数を明らかにする帳簿	患者サポートセンター

※ 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。

備考 用紙の大きさは、日本工業規格A4とする。

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧の実績

閲覧責任者	氏名	職種	役職等	
	医師 事務職		患者サポートセンター長 事務局長	
閲覧担当者	氏名	職種	役職等	
	事務職 事務職		患者サポートセンター主幹 経営企画室主幹	
閲覧場所	・患者サポートセンター及び利用契約医療機関 ・経営企画室			
総閲覧件数	医師	歯科医師	地方公共 団体	
	1,136件		その他 261件	合計 1,397件
閲覧手続の概要	○「豊川市民病院地域医療連携システム」による診療記録の開示 令和6年度 1,136件 内容：インターネットを利用した当院診療情報の公開 閲覧時間：終日 受付時間：平日 8：30～17：15 利用医師：地域連携登録医が所属する医療機関の医師 利用にあたっては、医療機関単位で利用申請後、協定書締結等の諸手続きが必要。 閲覧側医療機関が患者からの同意を書面にて得て、閲覧申込書を当院に提出。当院から情報公開処理を行っている。 利用医療機関：25医療機関（令和7年3月末）			
	○診療記録の開示（カルテ等個人情報） 261件 場所：経営企画室 閲覧時間：平日 8：30～17：15 開示請求：「診療情報等提供申出書」による。 開示手順 1 本人及び代理人（親族）による申出 2 提供又は非提供の決定 3 日時指定の上、会議室等で開示（必要に応じて写しの交付（有料））			

規定等は、別紙6-1のとおり

医療法施行規則第 9 条の 19 第 1 項に規定する委員会の開催の実績

1 委員会の開催回数 4 回

2 委員会における議事の概要

※委員会の開催回数及び議論の概要については、前年度のものを記載すること。

委員名簿は、別紙 7-1 のとおり 委員会議事録は別紙 7-2 のとおり

●令和 6 年度第 1 回豊川市民病院地域医療支援委員会

開催日：令和 6 年 4 月 25 日（木）午後 1 時 30 分から

場所：豊川市民病院 講堂 2・3

出席状況：委員 17 名中 13 名出席

【議題】

（1）地域医療支援病院にかかる実績等の状況について

①令和 6 年度・令和 5 年度の紹介率逆紹介率の状況

②令和 6 年度・令和 5 年度の地域連携登録医の状況

③令和 6 年度・令和 5 年度の共同利用等の状況

④令和 6 年度・令和 5 年度の救急患者の状況

⑤令和 5 年度の研修実績の状況

（2）がん診療に関する地域連携の状況について

（3）その他

●令和 6 年度第 2 回豊川市民病院地域医療支援委員会

開催日：令和 6 年 7 月 25 日（木）午後 1 時 30 分から

場所：豊川市民病院 講堂 2・3

出席状況：委員 17 名中 10 名出席

【議題】

（1）地域医療支援病院にかかる実績等の状況について

①令和 6 年度・令和 5 年度の紹介率逆紹介率の状況

②令和 6 年度・令和 5 年度の地域連携登録医の状況

③令和 6 年度・令和 5 年度の共同利用等の状況

④令和 6 年度・令和 5 年度の救急患者の状況

⑤令和 6 年度の研修実績の状況

（2）がん診療に関する地域連携の状況について

（3）その他

医療法施行規則第 9 条の 19 第 1 項に規定する委員会の開催の実績

●令和 6 年度第 3 回豊川市民病院地域医療支援委員会

開催日：令和 6 年 10 月 3 日（木）午後 1 時 00 分から
場所：豊川市民病院 講堂 2・3
出席状況：委員 17 名中 12 名出席

【議題】

- （1）地域医療支援病院にかかる実績等の状況について
 - ①令和 6 年度・令和 5 年度の紹介率逆紹介率の状況
 - ②令和 6 年度・令和 5 年度の地域連携登録医の状況
 - ③令和 6 年度・令和 5 年度の共同利用等の状況
 - ④令和 6 年度・令和 5 年度の救急患者の状況
 - ⑤令和 6 年度の研修実績の状況
- （2）がん診療に関する地域連携の状況について
- （3）その他

●令和 7 年度第 4 回豊川市民病院地域医療支援委員会

開催日：令和 7 年 1 月 23 日（木）午後 1 時 30 分から
場所：豊川市民病院 講堂 2・3
出席状況：委員 17 名中 10 名出席

【議題】

- （1）地域医療支援病院にかかる実績等の状況について
 - ①令和 6 年度・令和 5 年度の紹介率逆紹介率の状況
 - ②令和 6 年度・令和 5 年度の地域連携登録医の状況
 - ③令和 6 年度・令和 5 年度の共同利用等の状況
 - ④令和 6 年度・令和 5 年度の救急患者の状況
 - ⑤令和 6 年度の研修実績の状況
- （2）がん診療に関する地域連携の状況について
- （3）その他
 - ①令和 7 年度豊川市民病院地域医療支援委員会の開催日程（案）
 - ②委員任期満了に伴う次年度以降の委員の選出

患者相談の実績

患者相談を行った場所	医療相談室			
	氏名	職種	役職等	
○医療・福祉相談				
	M S W		副主幹	
	〃		主査	
	〃		主査	
	〃		主事	
○がん相談				
	緩和ケア認定看護師		主任	

患者相談件数

医療・福祉相談： 17,609件

がん相談： 298件

患者相談の概要

○医療・福祉相談

相談例は別紙8-1のとおり

相談時間 休診日を除く毎日 8時30分から17時00分

・経済的問題の解決・援助 (303件)

医療費や生活費に困っている場合に、保険や福祉制度が利用できるよう援助

・療養中の心理的・社会的問題の解決・調整援助 (2,153件)

傷病から生じる不安、悩み、社会的な問題に早期に対応するための相談に応じ、各種サービスの活用・調整等を行う。

・受診援助 (551件)

生活と傷病の状況により適切に対応した医療の受け方を援助

・退院（社会復帰）援助 (14,602件)

自宅退院するために必要な社会資源の調整や転院、施設入所の相談

○がん相談

相談時間 休診日を除く 10時00分から16時00分

・療養に関すること 治療、薬、症状、痛み、不安、心配、医療費など (211件)

・がん治療の一般的な情報 (86件)

・セカンドオピニオン医師の情報 (1件)

※ 患者相談の概要については、相談内容を適切に分類し記載するとともに、相談に基づき講じた対策等があれば併せて記載すること。また、個人が同定されないよう配慮すること。

備考 用紙の大きさは、日本工業規格A4とする。

居宅等における医療の提供の推進に関する支援の状況

居宅等医療提供施設等における連携の緊密化のための支援等の実績

- ・在宅へ移行する場合に、円滑な退院ができるよう、医師、看護師、退院調整看護師、ソーシャルワーカーが、在宅支援者と連携を図っている。
- ・多職種による退院前カンファレンス、個別ケア会議の開催（随時）
- ・病院転院実施連携担当者会の開催（1回）
- ・豊川市地域医療連携協議会会議への参加（1回）
- ・豊川市地域医療連携協議会退院調整担当者会への参加（研修5回）
- ・大腿部頸部骨折地域連携パス会議（3回開催）
- ・脳卒中地域連携パス会議（4回開催）

医療を受ける者又は地域の医療提供施設に対する情報の提供の実績

- ・地域医療機関に向け「地域連携だより」（2回）、「地域連携ガイドブック」（1回）を発行
- ・地域医療従事者に対し、当院開催の講演会や研修会等の開催案内を送付し、地域医療従事者等への教育・研修等の実施
- ・市民対象の市民健康講座を実施 令和6年度4回開催（6.8.12.2月）
- ・地域連携登録医に豊川市民病院地域医療連携システムによる患者の診療情報の提供
- ・院内に医療機関紹介コーナーを設け、地域連携登録医の医療機関マップ及び地域連携登録紹介カードを設置し、医療機関の情報を提供するとともに院内各所の掲示板にかかりつけ医を推進するためのポスターを掲示

その他居宅等における医療の提供の推進に関し必要な支援の実績

- ・在宅で訪問看護を利用する者に対し、当院の認定看護師が訪問看護師と同日に訪問する「認定看護師による同行訪問看護」を実施し、互いの知識や技術を活用した、より質の高い看護を在宅の場で提供した。
- ・病棟看護師や認定看護師が、訪問看護師と共に退院後の患者の自宅を訪問し、患者及び家族に退院後の在宅における療養上の指導を実施した。
- ・当院に通院歴のある在宅療養中の患者に関し、“電子連絡帳@”を用いた訪問看護師からの相談に、認定看護師が対応した。

その他地域医療支援病院に求められる取組みの状況

1 連携体制を確保するための専用の室、担当者

専用の室の名称	患者サポートセンター		
担当者	氏名	職種	役職等

医師

患者サポートセンター長

2 病院の機能に関する第三者による評価

評価を行つた機関名	公益財団法人日本医療機能評価機構
評価を受けた時期	認定証交付日：2023年1月4日 (3rdG:Ver.2.0) 認定期間：2022年11月26日～2027年11月25日

※ 医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。
認定証は別紙10-1のとおり

3 退院調整部門の取組

退院調整部門の実績

患者サポートセンターに在籍する退院調整看護師とMSWが2人1組となり、各病棟を担当し、それぞれの専門性を活かして調整を実施している。入院3日以内のスクリーニングにより、退院調整担当者の介入の要否を判定し患者との面談等を行ったうえ、退院支援計画書に基づき、想定される転院先の調整や、ケアマネジャーとの連携を入院早期から実施している。

4 地域連携を促進するための取組みの実績

策定した地域連携クリティカルパスの種類・内容

- ・大腿部頸部骨折地域連携クリティカルパス
- ・脳卒中地域連携クリティカルパス
- ・がん診療地域連携パス（肺がん、胃癌、肝がん、大腸がん、乳がん）
- ・潰瘍性大腸炎地域連携パス

地域連携クリティカルパスを普及させるための取組み

- ・地域連携パス会議の開催と地域医療機関等への周知
- ・地域医師会への訪問、及び地域連携登録医へパス制度参加の案内文書送付や個別医療機関への説明

5 病院が果たしている役割に関する情報発信の実績

情報発信の方法

- ・ホームページ、地域連携ガイドブック、地域連携だより、ポスター掲示及びチラシ配布

内容等の概要

- ・地域完結型医療の推進に取り組む当院方針の説明
- ・かかりつけ医を持つことの啓蒙
- ・診療科の特徴や専門分野、最新の取組み等のPR
- ・所属する医師や、保有する医療機器の紹介